

【熊本大学薬学部より事業委託】

文部科学省 質の高い大学教育推進プログラム
エコファーマを担う薬学人育成プログラム：環境と命を守る行動派薬剤師・薬学研究者を目指して

「目指せ!エコファーマ 英国に学ぶ地域連携のパートナーシッププログラム」



「環境」に関する社会的課題や経済活動についての知見と感性を有する薬学人材、エコファーマの育成に向けた視察プログラムとして英国での研修プログラムを実施させて頂きました。環境・持続可能な社会づくりにおける、薬剤師をはじめとする医療・健康保健分野の専門家の役割とその育成に焦点をあて、地域におけるパートナーシップ、持続可能な地域づくりにおける役割と多様な主体による社会のしくみづくりについて知見を広げました。

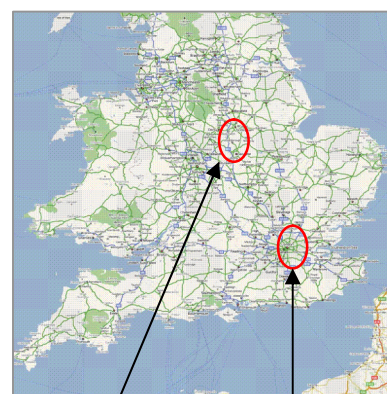
シェフィールド (Sheffield) 市

- *英国イングランド中部にある人口 50 万人の工業都市。
(英国第 5 の都市で英国工業の中心地)
- *産業革命時には鉄鋼業で発展、現在は金属加工業 (ナイフやフォークなど) で刃物産業が盛ん。
- *ロンドンから北に約 200km に位置している。
- *シェフィールド大学は 4 人のノーベル賞受賞者を輩出している名門大学である。
- *シェフィールド市郊外にはピーク国立公園があり、工業都市ではあるが自然も楽しむことが出来る。

※シェフィールド市の街並み



England



シェフィールド市

ロンドン



← ※参加メンバー

- 講師 宮北隆志 (環境ネットワークくまもと代表理事)
引率 白崎哲哉 (熊本大学薬学部准教授)
事務局 澤 克彦 (EPO 九州コーディネーター)
園田敬子 (環境ネットワークくまもと理事)
参加学生 熊本大学薬学部 3・4 年生 4 名
福岡大学法学部生 1 名
現地コーディネーター
小山善彦 (シェフィールド市関連)
澤野多加史 (ロンドン市内)

事業委託 - プログラム検討 - 事前学習

目指せ! エコファーマ
英国に学ぶ地域連携の
パートナーシッププログラム

報告会 - 次年度へ



第1回 エコファーマ海外研修(英国)

熊本大学薬学部環境分子保健学 白崎哲哉

熊本大学薬学部では、本学部より提出した「エコファーマを担う薬学人育成プログラム:環境と命を守る行動派薬剤師・薬学研究者をめざして」が文部科学省の平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム」(教育 GP)として採択され、現在、環境(薬学)教育を推進しています。今回その一環として、環境ネットワークくまもと EPO 九州のご協力により、平成21年8月31日(月)から9月6日(日)まで1週間、英国シェフィールド市およびロンドンにおいて研修を行いました。この研修には、薬学科の4年生2名と3年生2名の他、福岡大学法学部の3年生1名も一般で参加してくれました。本研修の目的は、先進国における環境問題への取組を薬学生自身が現地で視察調査し、今後の日本での取組や国際協力にどのように生かせるか考えること、学生自身が研修を通してこれまで薬学部で受けた教育を振り返り、今後の講義・実習ならびに研究に生かすこと、そして将来、薬学の視点に立って環境と命を守る“エコファーマシスト”、“エコファーマシューティスト”あるいは“エコファーマシューティカルサイエンティスト”として21世紀の社会で地域・国際貢献する新しい人材として成長してもらうことです。

第1回目となる今回は、今後日本で重要になると考えられる“持続可能な社会づくり”をテーマに、まずシェフィールド市で地域戦略パートナーシップによる街づくりについて視察しました。薬学生の研修であることを念頭に、特に環境と健康の問題に着目して、公衆衛生の側面から市役所、シェフィールドハラム大学、コミュニティー薬局、中間支援団体、NPO 団体のコンソーシアム、社会的企業を訪問し、地域戦略パートナーシップと地域合意における市議会やそれぞれの団体の役割と活動について調査しました。学生にとっては、慣れない社会学の分野で理解するのに大変苦労したようですが、「今回のような研修がないと学ぶ機会がない分野で参加して良かった」との意見をもらうことができました。シェフィールド市での研修の最終日は、研修終了後、シェフィールド市内から車で 50 分程のところにある、Peak District National Park に移動し、国立公園内のB&Bに宿泊しました。今回の研修では、唯一英国の自然に触れることができる時間となりました。

ロンドンでは、欧州でも最も古い薬用植物園のひとつである Chelsea Physic Garden とウェルカム医療博物館を見学

しました。

Chelsea

Physic

Garden では、薬用植物園の整備と活用に



ついて良い参考になりました。また、自由研修として、大英博物館またはバッキンガム宮殿も見学しました。その他、各日とも昼食および夕食時に街を散策し、英国文化に触れることができたことも学生にとって有益な研修となりました。

本研修では、英国と日本の薬学教育の違いも一部見え、英国で実践されている地域社会づくりをうまく日本に導入できれば、英国以上に薬剤師や薬学関係者が活躍できるのではないかと感じました。薬学生の他、現役の薬剤師、薬学研究者や行政や議員の方も一緒に参加してもらえば、薬学人がその能力を生かして地域社会のなかでより一層活躍できる社会づくりについて現地で一緒に考えることができ、より有意義であったであろうと思います。次回は、これらの方々にも一般参加を呼び掛けたいと思います。また、大手製薬企業や NHS などとも訪問したいと思います。

今回の研修成果については、11月3日(火)の薬学展においてポスター発表し、さらに11月9日(月)には、公開の報告会を開催して口頭発表しました。研修概要や研修報告については、<http://ecopharma.org/index.php> で公開しています。ポスターとスライドはよくまとまったものになったと思います。よければご覧ください。私たちだけでは今回のような有意義な研修プログラムを準備することは難しかったと思います。本研修プログラムの開発と実施、および事前・事後学習会では、環境ネットワークくまもと EPO 九州の皆様にご多大なお世話になりました。薬学部と環境ネットワークくまもとおよび EPO 九州との間に良いパートナーシップができたことも、本研修の大きな成果の一つと言えます。多大なご協力を頂きました関係者の皆様にご場をかりて、心より感謝申し上げます。また、このパートナーシップがさらに発展するよう今後とも努力していきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

第1回 エコファーマ海外研修(英国)旅日記より(一部抜粋)

EPO 九州コーディネーター 澤 克彦

【2009年9月3日(視察5)】

Sheffield Hallam University

Dr Angela M Tod

国立大学であるシェフィールドハラム大学ではパブリックヘルスに関する研究と実践に取り組んでおり、「Public Health Hub」としての役割を構築している。Hubは社会開発、組織マネジメント、芸術・技術、健康・予防の4つの研究領域やサービスが連携しながら、パブリックヘルスの推進を目指している。この取り組みが大学で起こった背景として、パブリックヘルスは関係する学問分野が多様あかつ横断的に取り組める素地があったことから、サービス開発と提供に関してそれらが連携・協業することが強く要請されたといえる。それは知識の効果的な移転につながる。大学が外部関係者との連携によって活動することは容易ではなかった。

その目的は、外部のクライアントに対してパブリックヘルスへの接点を広げ、また注目される考え方を提供することにある。大学にあるパブリックヘルスの知識をPHに関するコミュニティへと移転させる活動を活発にし、また大学のPH分野における存在感を高める。従来にはない分野へのサポートを広げる。学際的な取り組みにより、潜在的な力を相乗効果で高めていく。人々の取り組みにおけるパブリックヘルスの発展についてのビジョンを提供する。一言で言うなれば、パートナーシップを通して、健康に関する不平等を解消することにある。そこに向けて、職業能力の開発、健康的なライフスタイルの提案、PHに関する知識・情報、健康的な場づくりに取り組み、教育と研究、コンサルティング、調査、知識移転を行う。HUBは具体的な場をもつものではなく、方針づくりを行うグループと実務グループ、これらと連携するグループに分かれている。

NHS Rotherhamの取り組み

Joanna Saunders

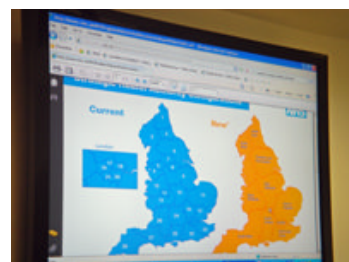
ロザナム地域は長く続いた炭鉱と製鉄の町であり、いまでも炭坑夫がいる。循環系の疾患患者が多い地域でもある。70%が農村地域である。



1843年に水道の蛇口が開発された地域でもあり、その後のPHへ貢献した。他、サッカーチームの有名ゴールキーパーやNHSの総裁がこの地域出身である。人口は253000人、65歳以上が42000人。地域的には衰退地域も多く、健康問題が経済的な側面と連関している。

取り組みとしては、NHS ロザナム、地域行政、LSPによって構成されている。PCT(NHS)は理事会と経営チーム、専門家チーム、関連委員会から構成される。理事会については保健省から任命され多元的なメンバー構成となっている。行政は、カウンスルの下に事務局があり、各分野別の部局から構成される。シニアマネジメントにはPCTの理事も入る。

LSPはAchieving・Learning・Alive・Safe・Proudといったテーマに分かれており、ヘルスビーイングはAlive分野になる。こうした関係機関と連携しながら、協力しての計画策定、地域協定の締結、対象の絞り込みと地域戦略づくりを行っている。ターゲットを定めることでサービスが適切に提供できるが、PSによることで効果があるテーマが生まれる。200ぐらいのテーマから35に絞り込んで目標を設定するが、基準よりも高い設定を行いかつ実施できた場合には政府からのインセンティブがある。



課題としては、どこに優先順位をつけるのか、サービス提供の責任主体、目標設定にミスがあった場合にどうするか、そのコスト負担についても課題がある。

成功事例として

小児肥満に取組む4階層の取り組みがある。それぞれの状況に応じたサービスすの調達と提供が成功している。予防段階では学校や地域でのプロモーションを中心に行うが、より深刻な度合いの場合には専門家によるプログラムが実施される。子どもを対象にした場合の合宿などが取組まれている(Leedsの専門団体と連携)。